

令和5年度 徳島大学大学院 創成科学研究科博士前期課程

臨床心理学専攻 II期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

(社会人特別選抜)

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙5枚の、合計6枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5問である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その1

第1問 以下の文章を読み、各設問に答えよ。なお、以下の研究は架空の事例であり、実際の研究事例ではない。

大学1、2年生の自尊心と自己肯定感が大学生の成績に与える影響を検討するために、ある大学の1、2年生1,000名に対して、自尊心と自己肯定感の質問紙調査をある年の4月に行った。自尊心及び自己肯定感の質問紙に対してそれぞれクロンバックのアルファ係数を算出したところ、それぞれ0.93、0.92であった。この大学生らの自尊心、自己肯定感、年齢、学年、性別、及び入学試験時(3月)の成績を独立変数にし、その年の前期の成績評価(8月)を従属変数として、重回帰分析を行ったところ、多重共線性が疑われた。そのため、ある変数を除去した上で、重回帰分析を改めて行った。また、A、B、Cというモデルを作成し、共分散構造分析を行った。A、B、CというモデルのGFI(Goodness of Fit Index)は全て0.95であった。一方、AIC(Akaike's Information Criterion)はそれぞれ104.56、122.65、172.19であった。これらの結果から、3つのモデルの内の1つを最終的なモデルとして採用した。

問1 クロンバックのアルファ係数を説明せよ。

--

問2 重回帰分析における多重共線性と、それが偏回帰係数に及ぼす影響を説明せよ。

--

問3 この研究で最も多重共線性が生じやすい変数の組み合わせを1組だけ述べよ。

--

問4 共分散構造分析におけるGFI(Goodness of Fit Index)を説明せよ。

--

問5 この研究で最も採用され易いモデルを一つだけ述べよ。

--

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その2

第2問 心理学に関連する、次の1～20とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- 1. 仮説を検証する際に、その仮説を支持する証拠を選択的に認知し、反証を探そうとしない傾向。
- 2. Kohler, W. がチンパンジーなどの問題解決行動の研究から見いだした、試行錯誤を経ずに一度で起こる学習。
- 3. 聴覚刺激における選択的注意の代表例。
- 4. ストレス反応に対して生体がもっている経路の一つで、視床下部-下垂体-副腎皮質からなるシステム。
- 5. 「他人の不幸は蜜の味」といったような、下方比較によって生じる快感情。
- 6. 精神世界の心理量と物理的世界の物理量との間の関数的関係について取り扱う学問である「精神物理学」を提唱した人物。
- 7. オペラント行動における、先行刺激、オペラント行動、結果からなる連鎖関係。
- 8. 「アイヒマン実験」を実施し、権威者からの命令にどこまで服従するかを検証した人物。
- 9. 下記の語群の中にある要約統計量のうち抵抗性が高いもの。
- 10. 1967年の著書『Cognitive psychology』で情報处理的アプローチによる心理学的研究を体系化した、「認知心理学の父」と呼ばれる人物。
- 11. Fisher, R. A.によって提案された、精度の高い実験を実施するための3つの原則のうちのひとつ。
- 12. 生命のないものに対して、生命や意識などを認める幼児の心理的特徴。
- 13. 網膜にある2種類の感光細胞によってもたらされる、その場の明るさによって同じものの色の知覚が異なること。
- 14. 刺激強度によって振幅に大小はないという、活動電位の発生様式に関する法則。
- 15. 19世紀末に提唱された、環境に対する身体的・生理学的反応の認知は情動に先行すると考える説。
- 16. Osgood, C. E.らによって開発された、対義語になる形容詞対を用いたリッカート法による双極尺度による測定法。
- 17. 音韻知覚に関する聴覚情報と視覚情報が一致しない場合、両者のどちらでもない別の知覚が生じる現象。
- 18. Cronbach, L. J.によって提唱された、学習者の持っている知能や性格などの特性で指導法の効果が異なるとされる現象。
- 19. 仮説が多少成立しなくとも、結果が大きく変わることはないという性質。
- 20. Sifneos, P. E.によって提唱された、心身症で見られやすい自身の感情への気づきや表現が困難な特徴。

語群

- | | | | |
|--------------|-------------------|------------------|-------------------|
| a. 観察学習 | b. Cannon-Bard 説 | c. アニミズム | d. 全か無かの法則 |
| e. プルキンエ現象 | f. 三項随伴性 | g. カクテルパーティ効果 | h. Stevens, S. S. |
| i. シャーデンフロイデ | j. Fechner, G. H. | k. 無作為化 | l. SAM 軸 |
| m. HPA 軸 | n. マガーク現象 | o. James-Lange 説 | p. 適正処遇交互作用 |
| q. アレキシサイミア | r. 平均値 | s. Neisser, U. | t. ロバスト性 |
| u. 中央値 | v. 三色説 | w. 洞察学習 | x. SD 法 |
| y. 確証バイアス | z. Milgram, S. | | |

解 答 欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その3

第3問 治療効果研究法の1つである無作為化比較試験（Randomized Controlled Trial：RCT）について、下の問1～2に答えよ。

問1 無作為化比較試験について、以下の手続きを必ず含めて説明せよ。
手続き：独立変数の操作，対照群の設置，操作的定義，従属変数の測定，統計的検定，無作為割付。

--

問2 うつ病患者200名に対する新しい治療法Aの効果測定する無作為化比較試験の実験計画を立案せよ。
その際、被験者間、被験者内、治療群、対照群という言葉を含むこと。なお、効果の測定時期は治療前、治療後とする。

--

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第4問 心理学に関連する、次の1～20の語とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。なお、語群中の『 』は著書・論文名である。

1. Havighurst, R. J.
2. Kübler-Ross, E.
3. Bandura, A.
4. Rogers, C. R.
5. Binet, A.
6. Employee Assistance Program (EAP)
7. Specific Learning Disorder (SLD)
8. Kernberg, O. F.
9. Freud, A.
10. Schultz, J. H.
11. Mini-Mental State Examination (MMSE)
12. Caplan, G.
13. Antisocial Personality Disorder
14. Vineland Adaptive Behavior Scales Second Edition (Vineland-II)
15. Rorschach, H.
16. Behavioral Activation (BA)
17. Grounded Theory Approach (GTA)
18. Axline, V. M.
19. Cattell, J. M.
20. Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI)

語群

- a. 産業カウンセリング
- b. 他人の権利の無視, 侵害
- c. 箱庭療法
- d. 認知症スクリーニング検査
- e. TRAP (Trigger Response Avoidance Pattern) /TRAC (Trigger Response Alternative Coping)
- f. インクのしみ検査
- g. 『死ぬ瞬間』
- h. 『メンタル・テストと測定』
- i. 文章完成法
- j. モデリング
- k. 社会的抑制, 不全感, 否定的評価に対する過敏性
- l. 地域精神保健
- m. 精神年齢
- n. コミュニケーション/日常生活スキル/社会性/運動スキル/不適応行動
- o. 自己概念と有機体的経験
- p. 自律訓練法
- q. 境界性パーソナリティ構造
- r. 『人間の発達課題と教育』
- s. 精神作業検査
- t. 『自我と防衛機制』
- u. ディスクレシア
- v. 分離・個体化理論
- w. 妥当性尺度 (? /L/F/K)
- x. 質的分析法
- y. 意味への意志
- z. 遊戯療法の8原則

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その5

第5問 下記の記述を読み、問1～問2に答えよ。

Aは、地域の単科精神科に勤める公認心理師・臨床心理士である。最近、地域のメンタルヘルス対策のために、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service: SNS）のアカウントを取得し、ニックネームではあるが、公認心理師および臨床心理士の有資格者であることを明示した上で、自分なりに情報発信にも注力している。

ある日、同僚の医療事務職員Bより、下記のような相談を受けた。

「私の交際相手Cが、リストカットを繰り返している。どこかに相談しようと思うが、知らない人にリストカットのことや自分の悩み事を話すことに、強い抵抗感があるようだ。私が、信頼できる心理職がいると伝え、あなたのSNSも見てもらった。すると、『あなたが信頼している人だし、相談してみようかな。前に会った時も優しそうな雰囲気だったし、それにSNSの情報発信も熱心だし、頼りになりそう』と話している。今度一度、相談に乗ってもらいたいが、お願いできないか。」

注）A、B、Cは、何度か複数名で食事に行くなどの交流があり、互いに面識はある。

問1 心理職（有資格者）として、SNSによる情報発信を行う際に留意すべきことは何か。あなたの考えを述べよ。

--

問2 Bの相談に対して、Aがとるべき対応として留意すべきことは何か。あなたの考えを述べよ。

--

小計	
----	--

合計	
----	--